

日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3296-1001

日本のリバイバルのために

伝道団体連絡協議会副会長 村上宣道

リバイバルへの期待

「日本に何かが起こればアジアに何かが起こる。そして、それは世界にまで及ぶ。」とは、世界の心あるキリスト者の共通した予測であり、また、期待でもあることは言うまでもない。特にアジアの諸教会では、日本の教会が弱小であることを十分承知しておりつつも、しかし、日本に何かが起これば、その及ぼす影響は決して少なくないとして、その期待は大きいものがあるようである。それが単なる期待でない証拠に、断食や徹夜祈禱をもって熱烈な執り成しとなって表れている。

その祈りの応えの故でもあろうか、昨今、日本の国内でもあちらこちらに、かつてなかったほどのリバイバルへの期待が高まりつつあるように思えてならない。

「主が声を出されると、水のざわめきが天に起こる」(エレミヤー〇・一三)

とあるように、まさに天のざわめきが聞こえてくるように思えるのは、筆者ひとりだけだろうか。

リバイバルのための祈りを

もちろん、リバイバルが単なる予測や期待や感じなどで起

こるものであろうはずがない。深刻な悔い改めを伴う、熱心な祈りなくしてリバイバルが起きたためしもない。いくらアジアの諸教会が祈ってくれているとはいえ、私たち自身が真剣に祈るのでなければ、リバイバルへの期待は虚しかろう。

しかしうれしいことに、リバイバルを求める祈りの火が、あちらこちらで燃え始めている。案外まとまりにくいとされている東京でも、超教派の宣教祈禱会が始まり、回をおう毎に盛り上がりを見せているのもうれしい兆候の一つ。ともかく先ず、祈ることを始めよう。各教会で、各団体で、そして個人でも。

リバイバルのための協力を

この機関誌のタイトルは「協力」であるが、これが文字通り日本に実現した時にリバイバルは起こるのであろう。リバイバルの歴史は、教会の間に、教派の間に、そして伝道団体の間にあるすべてのわだかまりが取り除かれ、聖霊による真の一致が見られるところにのみ起こるのであることを、私たちに告げているからである。

祈りと一致による協力をもって、共に、日本にリバイバルを期待したいものである。

第6回伝団協フェスティバル

初めて地方都市岡山で開催

延べ五〇〇〇人が集う

今回、伝団協フェスティバルは、第六回目にして初めて地方都市岡山で「岡山県宣教の集い」と共催で開きました。

開催にあたり、例年のお茶の水キリスト教会館を会場にして開いたのとは違う難しさがありました。先ず、展示場の設定でした。会場の日本イエス・岡南教会（鈴木一郎牧師）は、広い教会で部屋数は多くあり、自由に使っていていいと言っていたきましたが、各団体が同じようにアピールしたいという思いでしたので、一個所にまとめることにしました。参加団体が少ないと伝団協の働きの案内が無意味となり、全団体が参加となると、分かれて展示しなくてはならない、というジレンマがありました。少なからず多からずの二十団体を与えてくださり、五百名の来場者に、十分に働きの案内ができました。

講演は、新しい立派な会堂で「家族伝道」のテーマのもとに、毛戸麗子先生のイエス様のほとばしる愛についての話が大好評を博しました。岡山県宣教の集いの委員長の吉岡章先生、また会場を提供してくださった岡南教会の鈴木一郎先生には、大変お世話になり、ご協力をいただきました。各教会からも、奉仕者をだしてくださり感謝でした。

また、地元四社のクリスチャン企業の協賛を得て、立派なガイドブックが作成され、伝団協加盟団体の案内と共にとても好評をいただきました。重ねて感謝申し上げます。

許されれば、二年後にまた地方都市でフェスティバルを開催できたらと願っています。

最後に、多くの加盟団体からの協力者を得て、大変スムーズにプログラムを進めることができ、終了できましたことは、皆様のお祈りとご協力の故と感謝いたします。

第六回フェスティバル実行委員長 浅見鶴蔵



講師の毛戸師

伝道団体の働きを
具体的に、身近に
感じる事ができた

岡山県宣教の集い委員長 吉岡章

去る五月二十七日、岡山県宣教の集い総会とセミナー（年一回開催）に合わせて、前々から



各団体の展示と参加者



打診のあった伝道団体連絡協議会とのドッキングによる「日本をキリストへ伝道団体フェスティバル・イン・岡山」が開催されました。

午前は総会、午後と夜にセミナーと三回の集会でした。総会は、教職者中心でしたが（約三十名出席）、信徒も約二十名が出席され、朝から期待と意気込みが感じられました。

例年教職者が中心のセミナーで、夜だけ信徒大会として開放されていました。しかし、今回は、伝道団体が一堂に会して伝道のために役立つ多くの資料の展示、説明があるということにより多くの信徒の方々にこれらの活動を実際に目で見、手で触れていただきたいと願い、テーマを「家族伝道」としてセミナー全般に信徒の参加を呼び掛けました。世界宣教の始まりは「家族」であることを覚え……。

講師の毛戸麗子師も、まったく主に信頼し、八人の子供を産み育てたご自分の実生活の証しを交え、先ず私自身がキリストの愛に生かされ、キリストの愛に生きること、家族伝道に必要なのは赦す愛であること。愛を最高の目標にすることが繰り返し強調されました。

「赦すためです主の十字架」のゴスペルソングも繰り返し心から賛美され、すばらしい集いとなりました。また、信徒の方々が伝道団体の働きを具体的に、また身近に感じえたのは大きな収穫でした。

また、このようなおおがかりな企画を地方でできたのも、新装なった岡南教会というすばらしい会場があったことだと感謝しています。

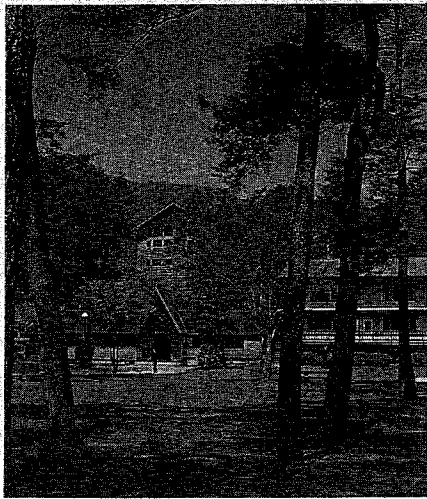
二泊研修懇談会のご案内

昨年に続いて今年も研修懇談会を二泊で行います。ご一緒に、研修・懇談・交わりの時を楽しみたいと願っておりますので、多くの参加をお待ち致しております。各団体の代表の方だけではなくスタッフ（新人の方も）をお送りください。

講師の山口昇師には、「未信者の心をいかにとらえるか」「JEAと伝道団体」の二つのテーマで語っていただきますので、各団体にとって相応しいテーマであると思います。

場所は、昨年と同じ恵みシャレー軽井沢です。バスツアーも企画していますので一足速い秋を満喫し、心身共にフレッシュされたいと願っています。

日時・一九九二年九月十七日(困)十九日(出)



2泊研修懇談会の会場の恵みシャレー軽井沢

第八回定期総会報告

一九九二年六月九日、OCC四F会議室において第八回定期総会が開催されました。出席団体二十五、委任状提出団体十九、合計四十四団体で総会が成立いたしました。

第一部礼拝において、原登副会長が使徒の働き二章一〜四節から「伝道団体の働きには多様性があるが、真の一致を守るとき、神の祝福がある」と題してメッセージされました。

第二部 総会

議案として「一九九一年活動報告」「一九九一年会計報告、会計監査報告」「再臨待望同志会退会の件」「一九九二年活動計画案」「一九九二年予算案」が各々承認されました。また議案「常任役員補充の件」については、鈴木優子氏（日本キリスト伝道会）、常田美香氏（ソング・ライズ）が推薦され、交渉は常任役員会に一任された。

尚、第三部ディスカッションでは、来年のフェスティバルについて、「来年も地方で開催してはどうか」「東京近辺のOCC以外の場所」「ピリー・グラハム大会の中で……」「OCCで」と活発な意見がだされましたが、常任役員会で検討することになりました。

また、フェスティバルin 岡山の感謝報告がありました（2、3頁参照）。

今年度の事業計画は以下の通りです。

①二泊研修懇談会 日時・一九九二年九月十七日

十九日／講師・山口昇師／テーマ・未信者の心をいかにとらえるか／場所・恵みシャレー軽井沢

②情報交換会 一九九三年二月／OCC

③フェスティバル

④「協力」八月、十二月、四月に発行

⑤常任役員会 一九九二年七月十日、九月十一日、十一月十三日

□常任役員会より

常任役員として鈴木優子氏（日本キリスト伝道会）が決まりました。常田美香氏（ソング・ライズ）は、都合で加わっていただけませんでした。

伝道団体連絡協議会役員名

顧問	島村亀鶴 森山 諭 岡村又男 羽鳥 明
会長	兼松 正 堀内 顕
副会長	本田弘慈
役員	原 登 K・マクビーティ 村上宣道 鈴木留蔵 岸田 馨 姫井雅夫 久保英夫 滝元 明
常任役員	渡辺佐次郎 浅見鶴蔵 岩崎喜太男 岩本信一 柳沢 清 鈴木 繁 鈴木優子
監査	辻岡健象 杉本成児

発行日	一九九二年八月三十日
発行者	本 田 弘 慈
編集者	鈴 木 繁